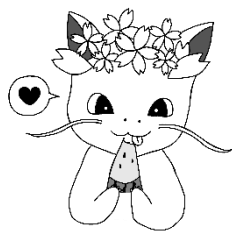


# 食育だより

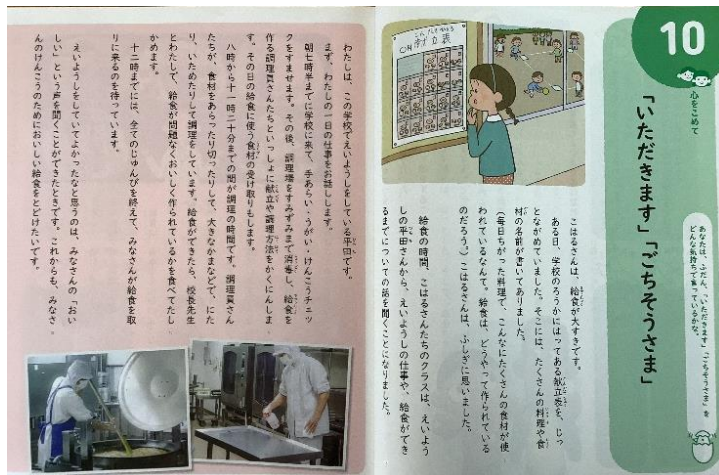


令和7年度(2025年度) No.10  
豊中市立庄内さくら学園 栄養教諭 高木智子

多くの教科書には、食に関する題材が扱われています。3年生の国語では「給食だよりを読みくらべよう」という学習をしています。今回は、4年生の道徳の単元をご紹介します。

## 4年生 道徳「いただきます」「ごちそうさま」

普段、何気なく言っている「いただきます」「ごちそうさま」その言葉に込められている感謝の心について考える学習内容です。教科書では、栄養士や調理員が登場し、どのような気持ちで日々給食を作っているのかが記述されています。



さくら学園では、走井学校給食センターで調理され届けられているため、給食の調理風景などに触れる機会がなかなかありません。授業では、実際に給食が作られている様子などを動画で見てもらいました。2、3年生の時にも給食センターの動画を見せていたため、「この動画見たことある!」と覚えている人も多くいました。動画を

みることで、普段食べている給食には、いろいろな人が関わっていることを感じてもらえました。



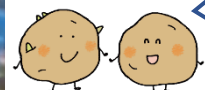
給食ではたくさんの野菜を使用しますが、冷凍野菜やカット野菜を極力使用せず、新鮮な野菜を使用しています。大量調理とはいえ、野菜の処理だけでも意外と手作業も多いです。大変ですが、「おいしいよ!」と言ってもらえるように頑張っています!



たまねぎだけでも 830kg!



葉物も1つつ切ります



じゃがいもの芽はとらないとね!

給食センターでじゃがいもの芽取り作業



## Q. どうして食事の時にあいさつをするの?

A. 日本の食事のあいさつには、感謝の気持ちが込められています。「いただきます」には、食べ物となる動植物の命をいただきますという意味があります。「ごちそうさま」には、食事をつくるためにかかわった多くの人への感謝の気持ちが込められています。



1回の食事には、たくさんの人が関わっています。野菜・果物・肉・魚・卵・牛乳...勝手に育てているわけではなく、お世話をしている人がいます。それ以外にも、食材を調理する人、私たちのところまで運んでくれるトラック運転手など、あげればきりが無い程、たくさんの人が関わっています。食事をする時、どんな人が関わっているのか?1度考えてみてください。

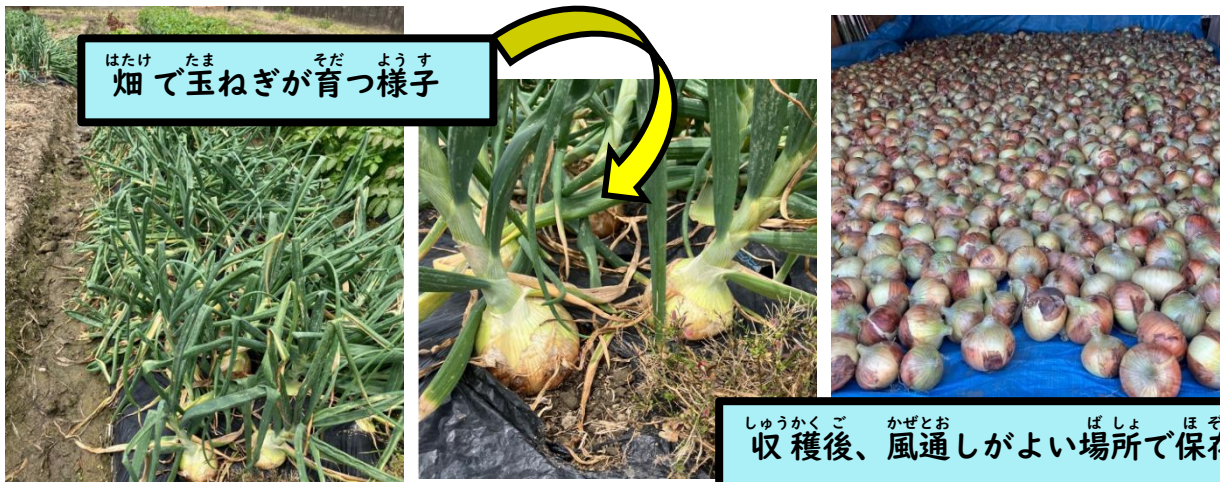
裏面に続きます

## 給食での地産地消について



『地産地消』という言葉を知っていますか？『地産地消』とは、生産された地域内において消費する取組のことを言います。国で決められている食育推進計画の項目の一つとして『学校給食における地場産物(地域でとれた産物のこと)を活用した取組等を増やす』とあります。豊中市でも、学校給食で地場産物の活用に取り組んでいるので紹介します。

豊中市では、毎年6月に豊中市内で収穫された玉ねぎを学校給食で使用しています。



畑で玉ねぎが育つ様子

収穫後、風通しがよい場所で保存

国の食育推進計画のなかに『産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ国民を増やす』という目標があり、また学校給食での地場産物活用も目標としてあげられています。豊中市の小学校給食の米も例年豊中市産と能勢町産を使用していますが、ここ2、3年は不作もあり、豊能地区の米で1年間まかなえなくなってきました。田畑の少ない豊中市ですが、できるだけ地場産物活用や国産のものを使用するようにしています。

みんなが農家になれなくても、みんなで食べることで農業を守ることができると言われています。みなさんも買い物の際に、“地産地消”について思い出してもらえると嬉しいです。

“地産地消”の良さは近くで生産された食材を消費するため、遠くから輸送されず、より新鮮な状態で手に入ります。また輸送による環境への負担も減らせます。



地場産物を食べて地産地消！

## 異学年給食交流

異学年交流は、学年の繋がりだけではなく、学年を超えて仲を深めることを目的としています。さくら学園では、開校初年度からいろいろな機会を設けて異学年交流を実施しています。給食交流は給食時間にランチルームで給食を食べながら交流を深めていこうという取り組みの一つです。1学期にもいろいろな学年で交流しました。



第2ステージ(5~7年生)では、「7年生で実施した広島宿泊学習について」という交流会を実施しました。第1ステージでは、1年生と4年生、1年生と2年生・2年生と3年生なども実施中。給食の準備をしたり、手紙を準備して渡したり...



と各クラスそれぞれの交流をしています。なかなか照れくさくて話がすすまない班もあれば、もと顔見知りで話が盛り上がっている班など、いろいろな様子が見られます。初対面でなかなか話せなくても、これを機に学年を超えて、さらに仲が深まると嬉しく思います。

